

# ラクスエーター・プラスの効果的な使用方法

デルタクリニック 虎ノ門歯科口腔外科・矯正歯科  
(東京都港区)  
順天堂大学医学部  
(東京都文京区)  
歯科医師 **梅山 遼**



近年、デンタルインプラントの技術の発展は目覚ましく、抜歯即時埋入や大規模G B R等も一般的に行われるようになってきた。特に、抜歯即時埋入においてはいかに**周囲歯槽骨に侵襲なく抜歯できるか**が重要なキーワードとなることが多い。侵襲を軽減するために滑車を用いた専用器具も用いられているが、使用方法が難しいことや、適応部位が限られることも多い。

またインプラント埋入を前提とした抜歯においては、唇側歯槽骨の温存、また臼歯部においては中隔の温存が重要である。また審美的回復のためソケットシールドテクニックを行うことも一般的になってきたが、その際にも、いかに**唇側に力をかけず、口蓋側を抜歯するかが予後を左右する重要なポイント**である。

一般に広く行われている、エレベーター（挺子、ヘーベル）を用いた抜歯では抜歯の三要素である楔作用・回転作用・てこ作用の特に“てこ作用”を用いて抜歯を行うため、周囲歯槽骨への侵襲が大きくなってしまふことがある。

一方、ラクスエーター・プラスは楔作用と回転作用のみで抜歯を行うために開発された器具であり、**最小限の侵襲での抜歯が可能**となる。

注意点としては、ヘーベルを普段から使い慣れている場合、ついつい“てこ作用”が働くような抜歯操作をしてしまう。しかしラクスエーター・プラスは刃部から根本部分が細く、無理に“てこ作用”をもちいると刃部が破断するリスクがある。

使用するイメージとしては**ルートチップに準じた使用方法を用いるのが望ましい**。(画像1)

具体的には、**歯根膜を含めた歯根周囲繊維組織を切断しながら楔として挿入する感覚**で用いる。回転も楔として挿入するのに必要な空隙を確保するイメージで使用するとよいであろう。



画像1 残根周囲歯根膜腔に楔として挿入する。